公益財団法人 五井平和財団
地球っ子広場事務局

平成28年度地球っ子広場事業報告

以下、国内で活動中の15教室と海外2教室の活動状況をまとめました。

地球っ子広場・奥州（岩手県奥州市）

奥州市江刺愛宕地区センターにて、月３回の開催です。

周辺の豊かな環境を活かし、思いきり遊んだり、宿題を行ったり、ピクニックなどの野外活動を取り入れ、自由にのびのびと過ごせる時間を大切にしながら、平和意識を育むことに力を入れた活動を行っています。

毎年、取り組んでいる「国際平和デー（9月２１日）」の企画では、子どもたちと高校生がコラボレーションして、地球への感謝と世界の平和への願いを込めた「ワンネスの世界」の大きなタペストリーを描きました。子どもたちや高校生からは喜んで取り組み、「まだ、描きたい！」という声が上がりました。

11月には、ピースらんど教室と一緒に、「石と賢治のミュージアム」（一関市東山町）で行われた、「第4回雨ニモマケズ朗読会inひがしやま」の朗読会に参加しました。8組の参加があった中、唯一の子どもたちの参加者だったため、とても喜ばれました。宮沢賢治ゆかりの地域性を生かし、賢治の世界を通して平和意識を育んでいます。

参加者の子どもたちの多くが通う奥州市立江刺愛宕小学校には、青い目の人形（友情人形）の一つが平和を語る資料として大切に保存されています。これは、戦前、ひな祭りなど日本の古くからの文化を理解した米国人のシドニー・ギューリック博士を通して日米の親善目的で、米国から日本全国の小学校や幼稚園に贈られたものです。その後、第2次世界大戦中、多くが敵国のものとして処分される中、地元の人々が守り隠し、現存する人形の一部でもあります。この友情人形を通した平和教育を奥州教室は長く続けてきました。12月には、地元の方を招いて、「シドニー・ギューリック博士をしのぶ会」を開催し、地元の大人にも、平和意識を啓発する機会を持ちました。

また、年間を通して、地元の菅野りんご園様の多大なるご協力を得て、りんご栽培の体験「あっぷる隊」の活動も行っています。りんごに文字入れの作業までさせていただき、「元気」「笑顔」「平和」などのポジティブな言葉を入れました。

地球っ子広場・ピースらんど（岩手県一関市）

「石と賢治のミュージアム」の多大なるご協力を得て、一関市の生涯学習活動「学びの土曜塾」の一つとして組み込んでいただき、月に1度開催しています。また、保護者やご年配の方も一緒に参加してくださり、世代を超えた場になっています。宮沢賢治ゆかりの地であり、賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という考えと地球っ子広場の精神が同じであると考え活動しています。自然遊び、エコ活動、創作活動などをバランスより取り入れています。

自然遊びでは、会場の側にはきれいなサワガニが生息できる条件の整ったきれいな沢があり、今年もサワガニ捕りを行いました。参加者全員が初めての体験で、捕まえたカニのスケッチも楽しみ、最後はカニを元の沢に戻してやりました。途中、カニが逃げ出し子どもたちが大興奮する楽しい場面も見られました。

エコ活動では、廃油からEM菌を含ませた石鹸を作りを行いました。EM菌を含ませることで環境に優しく洗浄力もアップし、身の回りのものを利用してできるため大好評でした。

創作活動では、羊毛フェルトの手芸、手作りの凧あげ、お雛様づくり、プラバンのアクセサリー作りなどを行い、どれも地域でご活躍される講師の方が本格的な指導をしてくださいました。特にお雛様づくりでは、奥州教室でも取り組んだ友情人形にも関連付けれれ、日本文化と平和意識を高める企画になりました。そして、事務局スタッフが視察の際には、「ヘルマンハープ」というバリアフリー楽器の演奏とミニ体験も行いました。

また、奥州教室と合同で、りんご栽培体験や「第4回雨ニモマケズ朗読会inひがしやま」の朗読会もおこないました。

地球っ子広場・仙台（宮城県仙台市）

　ものづくりのプログラムを中心に行っています。毎回、ボランティアのスタッフが順番に講師を務め、編み物、手芸、フラワーアレンジメント、昔遊びなど、得意なことを季節に配慮しながらプログラムを行っています。

　ものづくりの場合、制作過程では、基本的に大人は手出しやアドバイスをせず、子どもが納得いくまでとことん創作に付き合います。そうすることで、子どもたちにとっては創造力と集中力を発揮できる環境になっています。

　また、完成した作品はお互いに発表する機会を設けていますが、自分の感性のままに創作することを通して、しかっりと自分を表現し主張することができるようになっています。

　そして、特に力を入れているプログラムが、自分の周りで起こったポジティブなことや嬉しかったことなどを発表し、仲間たちと共有する「マイニュース」の時間です。日常の小さな幸せや喜びに目を向け感謝の心が育まれています。また、仲間の話を聴くことで共感力も高まり、自尊心と多様性を受け入れる心が育まれています。長年続けてきたことで、今ではすぐに人の前で発表する力もついてきました。

地球っ子広場・五井（千葉県市原市）

自由遊びを中心に、子どもも大人も、心を開いてゆるやかに集まれる場になっています。教室がオープンの時間になると、子どももボランティアスタッフも徐々に集まってきて、それぞれが自分の居場所を見つけ交流が始ると、その中から自然に遊びが生まれます。子どもが読み聞かせをしてくれたり、自ら考えてきたクイズを披露してクイズ大会が始まったりします。オリンピックの時期には、「地球っ子オリンピック・パラリンピック」が突然開催され、キャンディおとし、リレー、ドッチボール、風船おとし、いす取りゲームなど、全身からあふれるエネルギーを発して遊びました。

参加してくる子どもは幼児から小学生と年齢の幅が広く、一人っ子同士の小学生と幼児が兄弟のように過ごし、小学生のほうが「自分にまかせて」という姿を見せながら、一生懸命に年下の子の面倒を見たり、ボランティアとして参加している高校生は、幼い子どもが単純な同じ遊びを繰りかす様子にも根気よく見守りながら付き合ってくれたり、異年齢の交流がとても上手くいっています。

また、以前、6年生まで教室に通ってきていた地球っ子が高校生になって、何人かが時々顔をみせてくれるようになりました。自分の将来に対しての考えや進路の悩みを語ってくれたり、工業高校で科学実験を勉強しているので、やがては検定を取り地球っ子の皆に科学実験教室を開く企画を温めてくれていたり、自宅でつくったロボットを子どもたちに操作させてくれたり、ダンスの発表会前に輝いた姿を見せてくれました。大人に少しずつ近づいている中でも地球っ子広場の存在を忘れずにいてくれることはとても喜ばしいことでした。

そして、本年度も県立市原高校の生徒が、「ユネスコ協会ESDパスポート」事業の一環で、定期的にボランティアとして参加してくれています。エネルギーあふれる子どもたちに根気よく向き合ってくれる高校生の力は大変大きな役割を果たしています。

子どもが好きな、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、節分など、季節のイベントや、国際平和デーのテーマのイベントも行いました。国際平和デーでは、事前から練習したハンドベルで「小さな世界」の演奏や、しあわせへの気づきを促すストーリーの絵本を日英で読み聞かせたり、合唱を行いました。

地球っ子広場・いすみ（千葉県いすみ市）

　コーディネーター（広場の代表）のお孫さんとその友人を中心に開催しています。
自然の中で自由に過ごすことを意識するようにしています。そして、子ども達が自由に伸び伸びと過ごし、他愛ない交流を大切にしています。また、今年からは地元古民家での広場開催もスタートしました。

地球っ子広場・船橋（千葉県船橋市）

　28年度から新たに開設されました。コーディネーターが主宰しているテコンドー教室の特別プログラムとして、地球っ子広場の時間を設けています。昨今、子どもたちの運動能力の低下が問題視されていますが、テコンドーの体験をはじめ、体を使った遊びをメインプログラムとして、安全な場で楽しく体を動かす機会を提供しています。また、韓国、中国にルーツを持つ子どもや、イタリア人の師範が訪れ、国際色が豊かです。
　9月には、国際平和デーをテーマとした取り組みを3回に亘り行いました。1回目はイタリア人師範を囲んだすき焼きパーティを企画し、子どもと大人、師範も協力して買い物や調理をし、すき焼きをいただきながら、イタリアの生活・文化から世界の飢餓の問題に至る幅広い話題を通して地球のことに思いを巡らせました。あとの2回は、韓国に伝わる片足相撲や、道場のトレーニング用の器具を組み立てて、チームで障害物競走などを行いました。競争に負けたチームは皆で息を合わせて行う円陣スクワットに挑戦。勝ったチームは、彼らに大きな声援を送り、スポーツを通して、連帯感やお互いを称え合う心が育まれる国際平和デーになりました。
　12月にも、イタリアからテコンドーを学ぶ方が来日し、その機会に、「パスタ＆たこ焼きパーティー」を行いました。パスタはイタリアの方からコツを教わりながら作り、イタリアの方にも初めてのたこ焼きづくりを体験してもらいました。日本語、英語、イタリア語を交えー生懸命コミュニケーションをはかり、楽しいひと時になりました。

地球っ子広場・自由が丘（東京都目黒区、大田区）

　本年度は、目黒区立月光原小学校にて、ものづくり体験を行いました。
　6月18日は、カラフルな輪ゴムをリリアンのように編むアクセサリーづくり。9月21日は、万華鏡づくり。1月22日は、指に毛糸を掛けて編む指編みをおこないました。
　このイベントは、年に一度、大田区内の小学校で開催されています。会場となる小学校は毎年変わり、28年度は、2月19日（日）に、大田区立高畑小学校で行われました。新聞紙を再利用した「ハッピー・コサージュ」と牛乳パックを再利用した「ハッピー・ボックス」、2種類のエコ工作を提供し、今年も大好評でした。

地球っ子広場・豊田（東京都日野市）

季節の花々でブーケづくり、羊毛フェルトのマスコットづくり、クリスマス飾りづくり、新春の茶道など、季節を感じるプログラムや、アースデイ、そして国際平和デーなどをテーマに、地球への感謝や平和意識を育むプログラムを行いました。

夏には、子どもたちの希望で、デイキャンプを行うことができました。飯盒炊さんやバーベキュー、バウムクーヘンづくりや、ボルダリングなど自然の中で体を使って遊ぶ体験ができました。

また、とても大切にしているのが毎回必ず取り入れる「おやつ作り」の時間です。子どもたちとボランティアスタッフが一緒におやつを作っていただくことで、子どもも大人も心が緩み、他愛ない会話が引き出されます。その会話の中には子どもたちからの大切なメッセージが込められていることが多く、どんなに小さなことでも共感してあげることで、子どもの心が癒され豊かになる機会になっています。子どもたちは親や先生にも言わない心の内を語ってくれるようになりました。

子どもたちがありのままの姿でのびのび生き生きとできる、子どもたちにとっては第2の家庭のような存在になりました。

地球っ子広場・さむかわ（神奈川県高座郡寒川町）

本年度は造形からスタートしました。一人一つの作品ではなく、グループに分かれ皆で力を合わせて一つの作品を制作しました。この手法は以前より取り組んできたことですが、年々、子どもたちの成長が見られます。課題を与えるのではく、子どもたちの自主性を大切にし、意見を出させながら制作するものを決めて作業を進めました。そうすることで、子どもたち同士、合意形成を図りながら取り組むことで、自己原因性が刺激され創造性が発揮されました。実際に子どもたちからは「話し合って決めたことが楽しかった」という声が上がりました。

そして、年間を通して、「演劇」という大きな取り組みに挑戦しました。子どもの一人から「演劇をやってみたい」という希望があったところに、ボランティアスタッフの一人が、偶然にもいつも活動している施設で文芸部に所属している高校生（大谷和志さん）と出会い協力してもらえることになりました。

大谷さんは教室を見学し子どもたちの様子を見て、脚本を用意するのではなく、子どもたちのイメージをつなぎあわせ、大谷さんがストーリーと脚本をつくり演劇につなげる方向になりました。しかし、子どもたちの創造力は予想以上に素晴らしく、子どもたちはストーリーまで作り上げてしまったので、大谷さんには、それを脚本にしてもらいました。

子どもたちは、「なぜ、桃の中に人が入れたの？」といった「桃太郎」の不思議から展開し、最後は、「地球っ子だから、みんなで仲良くなる結末にしたいという」という気持ちから結末につなげました。これには、子どもたちの中にしっかりと平和が息づいていることを感じることができました。

台本が完成したのが１０月半ば。そこから3月までの間、月１度の限られた集まりで仕上げることは大変でしたが、地球っ子ならではの平和にあふれた作品を皆で力を合わせ、助け合いながら演じ切ったことは、子どもにとっても大人にとっても、かけがえのない感動体験になりました。

また、演劇に取り組みながらも、９月には国際平和デーをテーマにした取り組みも行い、「世界の人たちにお手紙を書く」というプログラムを行いました。子どもたちは世界地図から知っている国を探し、その国の食べ物、文化、盛んなスポーツなどについて話し、世界に思いを寄せることから始めました。

続いて、横に並べると世界の子どもたちが手をつないだモチーフになる、手づくりの民族衣装ぬりえを楽しんだ後、自分の関心事とつながりのある国に暮らす、まだ見ぬ友だちをイメージしながら手紙を書きました。「バスケットボールが好きなので、いつかアメリカに行って、一緒に試合をしたい」「ダンスが好きなので、（芸術の国）フランスに行きたい」「韓国の衣装が素敵なので着てみたい」など、思いを綴りました。　完成した手紙とぬりえが貼りだされると、子どもたちからは歓声が上がりました。自分の興味と結びつけることで世界を身近に感じ、また、皆でつくった小さな”世界”を前に、平和を願う心を共有することができました。

さむかわ教室の子どもたちがつくったストーリー
「フルベジ大ぼうけん」

ある日、フルベジ（フルーツとベジタブル）工場に住む子どもたちのもとに、友だちがいなくて寂しく過ごす鬼たちから手紙が届きます。そして、子どもたちは博士に内緒で、鬼と友だちになるために旅に出ます。

しかし、目の前にある船が小さすぎるため、博士が作った不思議な装置を勝手に使って、くだものに変身してから船に乗り込み、どんぶらこ～どんぶらこ～と、川を流れていきます。

途中、川で、お爺さんとお婆さんに拾われたくだものたちは、食べられる直前で、子どもたちの姿に戻ります。そして、友だちのいない寂しい鬼たちに会いにいくことを告げました。

お爺さんとお婆さんは、子どもたちが鬼たちに騙されているのではないか？と心配しますが、お爺さんは、もし、騙されているとしても、「みんなで踊れば絶対に仲良くなれる不思議な踊り」を、子どもたちに教えます。

そして、子どもたちは、お爺さんから大きな船も譲り受け、いざ鬼ヶ島へ。

鬼ヶ島では、鬼たちが、子どもたちの到着を首を長くして待っています。ようやく到着した子どもたちの姿を目にして、鬼たちは大喜び！子どもたちと鬼たちはすぐに打ち解けます。

しかし、楽しい時間はあっという間。博士に内緒で冒険に出た子どもたちは、急いで帰らないといけません。

せっかく仲良くなったのにと、鬼たちは悲しがりますが、友情の証に先祖代々から伝わった、それはそれは美しい鬼の角の宝物を子どもたちに贈ります。

　子どもたちは、お返しの贈り物がないことに困りますが、お爺さんから教わった「みんなで踊れば絶対に仲良くなれる不思議な踊り」のことを思い出し、それを鬼たちに教え、さらに友情を深めます。子どもたちと鬼たちは、再会を誓って別れました。

子どもたちは博士に叱られることを覚悟で恐る恐る工場に戻ってきました。博士を目の前にした子どもたちは、潔く謝ります。しかし、手紙を仕掛けたのは、博士が張本人でした。子どもたちの成長を願ってのことだったのでした。

みんなが幸せな気持ちになり、お話はおしまい。
めでたし。めでたし。

地球っ子広場・新潟（新潟県新潟市）

日本文化の理解と国際感覚を養うことをテーマにしています。地元の外部講師の方々の協力を得ながら、茶道、華道、革細工、英語をベースに活動しました。どの活動も先生方の熱意とご好意で行われています。子どもの個性を生かしながらも、本格的なご指導をしていただきました。

地球っ子広場・宮のびのび（静岡県富士宮市）

28年度から新規に開設された教室です。

静岡県は外国人家庭が増えていることから、多国籍の子どもたちを受け入れたり、また、親子で参加してもらい、お母さんたちが心を開放してもらえる場になることを目指しています。

食の大切さ、そして自分で作ることの楽しさを伝えるため、カレールーを使わずにスパイスからつくるカレーづくりや、パン作りを行いました。コンビニでなんでもすぐに変えてしまう時代ですが、食材の買い出しから始め、丁寧に手間をかけてつくった料理を皆でいただくことで感謝の心を養いました。

Tシャツや靴下を染色の技術を教えてもらいながら挑戦もし、自分の好みに仕上げた衣類を身に着ける楽しい経験になりました。

南米の音楽会では、ボリビアやペルーの家族が集まり、日本の家庭料理や持ち寄った料理で多国籍家族の交流会を行い豊かな時間となりました。

一泊二日で行った親子合宿では、皆で食事を持ち寄り、自由遊びを中心に過ごしました。「３つのお約束」を実行することを意識した過ごすことで、子どもたちは、大人に「やって！」という言葉を発するものの、「自分のことは自分でするだった」と自分の行動を顧みて、1歩ずつの成長が見ることができる機会となりました。

地球っ子広場・富士SUN山（山梨県）

自然体験、特にハイキングや山登りに重きをおいて活動しています。自然体験では助け合わないといけないことが多く、滝遊びをした時は、年上の子が年下の子を見守り、導き、縦割りで協力する姿がありました。子どもたち一人ひとりが自分の立ち位置をわきまえて行動する姿にはとても感動しました。体力と自信もどんどん付き、大人が思いつかない遊びを考え出しスイスイとやってのけるたくましさには、目を見張るものがあります。山登りについては、天候などの影響で計画通りにはいかないことが多々あり、楽しみにしていても中止になることがあります。何でも人間の思う通りにはいかないという、自然への畏敬の念を育む機会になっています。自然は人間を温かく見守り、楽しいこと、挑戦することを通して、子どもたちを応援しその成長にとことん付き合ってくれます。子どもたちに心に感謝の心と生命を尊ぶ心が育まれていると感じ、以前は「山はいやだな」と言っていた子どもから「山に行きたい」と言う言葉が聞けた時にはとてもうれしく思いました。

夏場には、プールに行くことも多く、潜ることはもちろん、水に顔も浸けられず、プールの淵を伝い歩くだけだった子どもが、ある時、他の子どもから影響を受けたのか、突然、平気で潜り、水をかき水中を進姿に驚かされました。長いこと続いた水への恐怖を克服した瞬間でした。

そして、恒例のキャンプも、参加者の子どもや大人から「天国のような時間だった」と感想が出るほどの素晴らしい1泊2日でした。1日目は陣馬の滝で水遊び、2日目は蛾ヶ岳登山の予定でしたが、大雨で登山は中止となり、急きょ、四尾連湖で水泳大会になりました。また、自分の食べる分の食事の調理に挑戦したり、BBQを楽しみました。寝食を共にして皆が協力しあい、思いやりとやさしさがつながりながら、子どもたちが自ら率先して役割を果たす機会になりました。「何が一番楽しかったかなんて決められない」感想が出るほどでした。

冬場には、雪あそび（スキー、ソリ）合宿も行いました。この時も、年上でスキーができる子どものリードで、スキー初体験だった子どもが楽しく参加することができました。子どもたちは食事を忘れるほど楽しい時間をすごしました。子どもの一人が学校で厳しい状況にありましたが、気持ちを切り替え、吹っ切ることができるきっかけになったとのことで、とてもうれしく思い、これからも見守り続けたいと思います。

地球っ子広場・きょう（京都府宇治市）

年間を通して、学校や家庭では体験できないことや挑戦ができる場を心がけ、情操教育に力を入れています。様々なジャンルからバランスよく体験活動を組み入れています。

特に音楽活動には重点を置き、みんなで力を合わせて音楽を作り上げる楽しさを体験してもらうために、パーカッションの合奏に挑戦しました。「ドーナツクラブ」というチーム名を子どもたち自ら命名し、ランニングドラムとマーチングの練習に励みました。最初は低学年の子どもがついていけず、泣き出す場面もありましたが、子どもの中でグループをひっぱいってくれる子が現れたり、回数を重ねるごとに心の距離を近づけながら成功体験も積み重ね、クリスマス会では9人のメンバーが一つになり演奏できたことが大きな自信になりました。新たな目標も生まれ、今後の活動が楽しみになっています。また、音楽の美しさ、楽しさはすべての壁を越えてどんな人にも伝えられることを体験してほしい思いから、音楽会も定期的に開催しました。バイオリンとピアノの演奏、篠笛とハープの演奏に合わせた読み聞かせ、三味線と大正琴の演奏など、いろいろな楽器と音楽に触れあえる機会をつくっています。バイオリンの生演奏を初めて聴いた子どもも多く、また、生演奏に合わせた朗読体験もさせてもらうなど、ホンモノに触れる貴重な時間となり、子どもたちの集中して参加していました。

自然活動では、里山体験を行っています。里山の畑から、たまねぎやじゃがいもの収穫をして、それらを使った料理体験や、虫取りなどの自然観察、また、竹林の竹を使った工作や、竹アーチェリーを行いました。自然の中で夢中で遊ぶことで、子どもたちの中に本来備わるエネルギーのすべてが引き出されたようでした。

創作活動では、木工のからくりおもちゃを作り、子どもたちは夢中になって作り上げ、講師の方のアイデアや工夫から生まれたからくりには親子で驚かされました。夏休みの自由研究にもなるプログラムでした。毎回大好評のパンづくりでは、ピザとヨーグルトのデザートをつくり、トッピングの野菜や果物など好き嫌いなく食べれることを目標にしました。パティシエの方から教わるお菓子教室ではクリスマスのアイシングクッキーに挑戦。なかなか難しく悪戦苦闘しましたが、「難しかったけど、楽しい！」という声が上がり、それぞれの子どもたちが達成感を得たようでした。

そして、新たにダブルダッチにも挑戦しました。ダブルダッチとは、2本の長縄を使い、音楽に合わせたりしながら大縄のように回し跳ぶ競技です。世界大会優勝の経歴をもつ立命館大学ダブルダッチサークルの学生の皆さんが講師として協力してくださり、素晴らしい演技の鑑賞と体験をしました。ダブルダッチはスポーツでありながら、リズムに乗って音楽を使って楽しみながら技を磨いていくこと。年齢に関係なく全員で参加できること。縄を回す人と跳ぶ人が交代しながらチームワークを身につけて楽しめること。振付や技は自由に工夫し作っていけること。それを子どもたちが体験しながら学んでほしいと思い取り入れました。今後も継続的に取り入れていくことを目標にしています。

地球っ子広場・タカラヅカ（兵庫県宝塚市）

宝塚市内の桜台小学校と長尾台小学校両校で、月2回ずつ開催しました。地域の大学生から熟年世代の方々までと幅広い世代の方々がご協力くださり、プログラムの講師を務めてくださるなど、世代を超えた交流・コミュニケーションをとる良い機会となっています。世界の文化を学んだり、科学遊び、昔遊び、囲碁、バルーンアートなど、普段、学校や家では体験できないプログラムや遊びの時間を多く設けました。

地球っ子広場・甲陽園（兵庫県西宮市）

25年度より西宮市青年愛護協議会の活動の一つになりました。月２回開催されるプレーパークでのサポートと、「科学体験・水ロケット」「本格的な革小物作り」「ペンシルバルーン」「夏祭り」などの大きなイベントを開催し、毎回定員を超える応募があり大変な好評を得ています。

地球っ子広場を卒業し、高校生や大学生になった子どもたちが、夏祭りなどの地域のイベントの際には、顔を見せてくれたり、スタッフとして手伝ってくれるようになってきました。そのようなことからも、地域をつなぐ役割を果たせていると実感しています。

地球っ子広場・Unite（アメリカ・カリフォルニア）

2016年に新たに開設された教室です。現在は、就学前の小さな子どもを中心です。小さな子どもでも地球や平和の大切さを感じとることができるように配慮しています。室内では自由遊びの時間を持ちながら、季節のテーマのクラフトやお絵かきを行ったりしました。また、野外活動として、ハイキングやピクニックにでかける機会もちました。世界地図を持って動物園に出かけ、それぞれの動物たちが、どの国からやってきたのか地図を照らし合わせながらふれあったり、自然公園では、「妖精を探そう！」と子どもたちに声をかけ、きのこを見つけたり、花やベリー摘みを楽しんだり、不思議な形の木に出会ったら、創造を膨らませながら、木の周りで遊んだり、また、毒を持っている木の存在を学んだりしました。まだ年齢は幼いですが、子どもたちは「新鮮な空気はきもちがいい」とつぶやく場面もありました。今後も子どもたちの成長い合わせて、プログラムを企画していきます。

地球っ子広場・
ラボラトーリオ・ディ・パーチェ　スパーツィオ・ペル・イ・バンビーニ・スッラ・テッラ（イタリア）

2016年に新たに開設された教室です。イタリアを中心にヨーロッパで展開をしてゆく予定です。2016年度は、イタリア中部自身の被災地、現在も多くの人が不安と恐怖を解消しきれずに生活しているマチェラータ県トレンテイーノ市で、マクロビオティック教会や地元の人々が集まる書店とコラボレーションした企画を行いました。

日本の童話を手作りの紙芝居で読み聞かせたり、何ができるか完成してからのお楽しみにしている折り紙や、書道の体験をしてもらいました。折り紙では、一枚の紙から、羽が動く鶴や、空気を入れると風船が現れる様子に子どもたちの表情は驚きと喜びで輝きました。また、書道では、ポジティブな言葉を選び、書き順、筆の持ち方、姿勢など基本的なことは教えながらも、自由に表現できるよう配慮し楽しんでもらいました。

子どもたちは、上手に褒めてあげるとよく育ち、折り紙の経験がある8歳の子が、小さな子を手伝う姿に、「3つのお約束の『余った力で人の手助けをしよう』がよくできたね」と伝えたり、小さな機会を逃さず、一人一人をフォローしました。

最後に、被災地だからこそ、自然に感謝することの大切さを伝え、実際に数秒の間、息を止めてみて空気の大切さを伝えたり、「グラッチェ！（ありがとう）、動物さん」など、あらゆる自然に向けて声をそろえて感謝しました。

今後は、より多くの開催の機会を設け、慣れてきた子どもには、アシスタントになってもらうなど、責任感や自信を持つ場にしていきたいと考えています。

震災復興プロジェクト「地球っ子キャラバン」

東日本大震災後の平成23年5月にスタートした震災復興プロジェクト「地球っ子キャラバン」を実施しました。

地球っ子広場のプログラムを通じて、福島県と宮城県の被災地の方々、特に子どもたちが一日も早く大震災から立ち直り、地域の復旧・復興、新しいまちづくりや自立に向けて、明るい希望や力強いエネルギーを見出していけるよう、支援活動を展開しました

日付	会場	対象者	内容	主催教室
6月8日（水）	学童保育 「オレンジハウス」 （福島市南矢の目）	学童保育の児童	●「父の日」のメッセージカードとプレゼント作り ●絵本の読み聞かせ「いのちをいただく」「ひいわってすてきだ」	仙台教室
9月10日（土）	「増田西公民館」 （宮城県名取市）	被災地域の児童	●絵本の読み聞かせ「いのちをいただく」「いのちのまつり」 ●味覚の実験 ●夢「宇宙に届けるカード」づくり	仙台教室

6月8日（水）福島市「オレンジハウス」にて

9月10日（土）宮城県「増田西公民館」にて